

令和4年度 調布市立布田小学校 学校評価報告書（学校長 樋川 宣登志）

学校の教育目標	
○自ら考えくふうする子 ○なかよく助け合う子 ○けんこうでねばり強い子	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像、教員像、児童・生徒像	
「子どもたち一人一人を大切に作る学校」	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>						
① 豊かな心(徳)		② 確かな学力(知)		③ 健やかな体(体)		
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	①読書活動・文化文芸活動の充実 ⇒春秋読書月間の取組、年間2回。シルクドソレイユ観覧、浅草演芸観覧、コンサート鑑賞など	A	①授業スタイルを整え、学習効果を高める⇒ 管理職による授業観察と指導を学期1回。ショート研修、月1回程度。	B	運動技能、運動への関心を高める活動 ⇒ なわとび期間・持久走期間の取組	C
	②互いを認め合い尊重する心、自尊感情を育てる異学年交流⇒月1回程度	B	②「楽しいから考える 考えるから楽しい」授業の構築⇒ 研究授業、年6回。	A		
	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価
	①保護者アンケート肯定的評価97%	A	全国学力調査で、国・都の平均を十分に上回った。算数では、全国2位の都の平均をさらに10ポイント以上上回った。	A	全国体力・運動能力調査で、都の成績とほぼ同様だった。	C
関係者 学校	②保護者アンケート肯定的評価85%	A	◇授業参観において、学習規律のよさ、子どもたちの関心・意欲を高める指導の工夫、タブレット端末を活用した授業を評価いただいた。			◇十分に実施できなかったこともあり、ご寛いいただくことがほぼなかった。
	◇授業参観では、子どもたちが交流したり協力したりする活動を評価いただいた。					
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>						
④ 安全・安心な学校生活の確立		⑤ 個性の尊重と伸長		⑥ 保護者・地域の教育力の活用		
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	①感染症予防、アレルギー対応のルールの確実な実施⇒ 毎日	B	①特支専門員・SS・ボランティアによる個別指導や授業補助⇒ 毎日。	B	①保護者・地域と連携した地域行事の実現⇒ 秋まつり、地域運動会、布田小クエスト	B
	②児童の実態把握(学期1回以上のアンケート)、いじめ防止対策委員の組織的対応(適宜)により、早期による対応・解決ができた。	B	②指導教諭・専門家による研修会 ⇒ 学期2回程度。	B	②見守りアテンダント等の協力による防災・防犯、交通安全の確保	B
	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価
	①保護者アンケート肯定的評価95% アレルギー事故0件	A	保護者アンケート肯定的評価76%	B	①保護者アンケート肯定的評価94%	A
関係者 学校	②保護者アンケート肯定的評価71%	B	◇一人一人への細やかな対応について評価いただいた。			◇学校関係者評価委員の多くが地域協力団体ともかかわっており、自ら率先して参加・協力していただくことができた。
	◇落ち着いた学校の雰囲気、いじめや不登校対応について評価いただいた。					

人材育成・組織運営	
自己評価	◇主幹・主任教諭をリーダーとして各分掌に配置し、自主的・計画的に職務を進める組織作り、組織的取組を進めることができた。校長と各リーダーとの打合せ、企画調整会議の活用を通して、ミドルリーダーの育成が進んだ。 ◇主幹教諭・指導教諭、OJT 担当をリーダーに校内研修会を開催し、教員の資質向上を図った(月1回程度)。 ◇業務の効率化、職員のライフワークバランス改善を目指し、会議・業務等を整理削減したりペーパーレス化を進めたりした。 ◇スクール・サポート・スタッフや副校長補佐が活躍できるように環境を整えた。
評価 関係者 学校	◇校長の経営方針やリーダーシップについて賛同・評価をいただくとともに、教育活動の質を高く評価いただいている。 ◇来校の際や授業参観の際などに、前向きでまじめな教職員の姿勢、指導力、子どもへの接し方について評価をいただいている。

中期的な経営目標の達成状況	
1	文化文芸活動では満足のいく取組を実施できた。ただし、感染症拡大の状況下、体験活動や校外学習、交流活動等々が十分にできなかったことが課題である。
2	主体的な学びを大切にし、学力の向上を図ることについては、順調に成果を挙げている。学力の定着状況がよい。
3	健康保持・体力増進のために考え判断する力と態度を育てることについては、感染症拡大下、十分に進めることはできていない。
4	安全・安心な学校生活を確立することは、概ね達成している。
5	個別の支援・指導に取り組み、児童の困り感や保護者の期待に応えることができていく。さらに一人一人の個性を大切に伸長する細やかな支援を計画していく。
6	保護者・地域の教育力を活用して学校の教育活動、児童の安全確保を充実させることは、概ね達成している。

次年度の重点課題	
◆学校文化を継承する教育課程の編成・実施⇒ 感染症にかかわる制限緩和が進むことが想定され、教育活動の活性化が期待される。一方、コロナ禍の単なる制限ではなく、3年あまりの間に、教育活動に本質的な変化も起こっている。令和5年度、教育活動の再活性化とともに、新しい教育課程の編成・実施が求められる。また、学校文化の継承が重要である。 ◆教師の資質向上⇒ 研究・研修が思うように進められていない現状を踏まえ、教師の資質向上に重点を置く。	